

みんなの幸せを願って

6月4日(土) PTA人権同推委員会現地研修

PTA人権・同和教育推進委員会発行

列車ごうとアユ漁 もう一つの米原を訪ねて

今年度の現地研修は滋賀県で新幹線の止まる駅を持つ米原市を訪問しました。列車の町らしく戦時中には列車の防空壕が作られました。また、午後は清流も流れており、伝統的なアユ漁も残っている「和ふれあいセンター」で、地域の歴史に触れながら、「人にやさしいまちづくり」について学びました。

私たち滋賀県人にとっては身近な米原を、今回は少し違った角度から研修してきました。

岩脇（いをぎ）列車壕とは？

米原市の岩脇山には2つの未完成の列車壕があります。戦後はゴミ捨て場として長く放置されていましたが、地元岩脇まちづくり委員会の皆様が戦争の悲劇を風化させないためにと整備保存に努められ現在に至ります。

列車壕は、太平洋戦争末期に米原駅の蒸気機関車を空襲から守るために掘られたものです。米原駅は、北陸線と東海道線の分岐駅であり戦時中は兵士、武器、弾薬を輸送する重要拠点でした。

蒸気機関車（避難）壕は2本計画され、戦時中の物資不足の中、火薬・スコップ・ツルハシ・トロツコを用い、まさに人海戦術で掘られました。1号壕は130mで貫通。2号壕は山の両面から各52mまで掘り進められましたが、ここで終戦を迎えます。つまり2本とも一度も使われることはありませんでした。

昼食は旧中山道醒ヶ井宿にある本陣樋口山さんでいただきました。地元で取れたビワマスの天ぷら等とても美味しかったです。醒ヶ井宿はヤマトタケルの熱を醒ました伝説の湧水「居醒の清水」がある清流の郷で、その「居醒の清水」を源流とする地蔵川には、梅の花そっくりな水中花「梅花藻」が咲き、食後の散策を楽しみました。

